

『楽しい』から始まる、1人1台端末を活用した外国語科の取組

岩見沢市立日の出小学校 学級数 18 (校長 山本 あさ子)

I 実践の概要

本年度、小・中学校における9年間の学びをつなげることを目的とした、ICTの効果的な活用による授業づくりを全教員で進めている。特に、小学校外国語科及び外国語活動については、教師のきめ細かな支援により、ICTを積極的に活用し、児童が楽しく、体感的に、英語の発音や表現を習得できる授業の実現を目指している。

II 実践の内容

1 相手意識を育む外国語科における言語活動の充実

外国語科においては、日常生活に関連させた学習場面を設定し、児童に相手意識をもたせることで、学習した内容を活用する必然性をもたせることができる言語活動が大切である。

本校では、新しく着任したALTに自己紹介することを設定した言語活動の中で、1人1台端末を活用し、児童が試行錯誤しながら、自己紹介カードを作る取組を通して、相手意識を高め、話すことの必要感をもって学ぶ姿につながることができた。



【ALTに対する自己紹介カードを1人1台端末を活用して作成している児童の様子】

2 デジタル教科書の積極的な活用

デジタル教科書には、効果的に発音や表現を体感し、習得することが可能になるメリットがある。本校では、児童が必要に応じて、デジタル教科書の発音を繰り返し聞くことができるよう、授業での積極的な活用を図っている。デジタル教科書を活用した練習の成果を実際の会話の場面で活用させる意図的な指導の工夫により、児童は自分の成長を実感しながら、学習に取り組むことができていた。

デジタル教科書の機能を効果的に活用し、実際の会話や活動場面に結び付けることで、児童の知識及び技能の定着や、思考力、判断力、表現力等の育成を図ることができる。



【デジタル教科書の機能で練習した表現を、実際の会話として実践する児童の様子】

3 ALTとのねらいの共有

児童が楽しく英語に取り組むという、本校が大切にしている目標をALTと共有し、無料で使えるクイズアプリを授業の導入において活用している。T1は英語でクイズを出題し、児童は1人1台端末を活用して4つの選択肢から回答を入力する。回答状況を速やかに確認することで、授業のテンポがよくなり、英語に対する児童の関心・意欲に高まりが見られるとともに、英語を聞く集中力が育まれてきている。



【1人1台端末を活用して、クイズを実施している様子】

III 成果(○)と課題(●)

○ デジタル教科書の機能を活用した個に最適化された学習と、ALTによる発音練習及び実際の会話として活用する指導が、児童の知識及び技能の定着及び思考力、判断力、表現力等の育成に効果的であった。

● 児童一人一人が、必要感をもち、課題に応じて、デジタル教科書を主体的に活用できるよう、授業実践をさらに積み重ねていく必要がある。

学習者用デジタル教科書を活用した外国語教育の充実

日高町立日高中学校 学級数4 (校長 瀬戸 肇)

I はじめに

本校では、英語を用いて発表することに苦手意識をもつ生徒が多いことから、学習者用デジタル教科書を活用し、一人一人の課題に応じた音読を繰り返し行ったり、本時の学習内容や既習事項を活用し、自分の言葉で写真の内容を相手に伝えたりする活動を通して、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする意欲の向上を図っている。

II 実践の概要

1 単語の読み上げ機能を活用した学習活動

学習者用デジタル教科書の単語の読み上げ機能を活用して音読を行った。生徒は、教科書に掲載された単語の読み上げを聞きながら、正しい発音に気をつけて、繰り返し音読することができた。

音読の際、生徒が1人1台端末を活用し、個別の課題となっている単語を繰り返し聞きながら音読することができる時間を設定することで、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする意欲の向上を図った。



【音読練習の様子】

2 自分の言葉で相手に伝える学習活動

主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする意欲の向上を図るため、教科書に掲載されている写真の内容を相手に伝える学習活動を行った。

①リテリング機能を活用した発表原稿の作成

写真の内容を相手に伝える際、学習者用デジタル教科書のリテリング機能を活用し、表現方法の工夫や正しい発音、英語のリズム、音の強弱及びイントネーション等を意識した発表内容を考える学習活動を行った。

また、発表原稿を作成する際、同様にリテリング機能を活用し、一人一人の習熟度に合わせ、既習内容を振り返ったり、発話の工夫を考えたりする時間を設定することにより、相手を意識した内容を考えることができた。



【リテリング機能を活用した発表の様子】

②グループ内での発表及び評価

生徒は、作成した発表原稿を基に、相手に伝わるよう、正しい発音、英語のリズム、音の強弱及びイントネーション等を意識して、グループ内で相互に発表を行った。

発表の際、発表者以外のグループのメンバーは、聞き手として、発表者の表現方法の工夫や英語の聞き取りやすさについて評価した。グループ内での発表と評価の後、生徒一人一人が、自己評価とグループのメンバーからの評価を基に、自身の発表の成果と課題について振り返る時間を設定することで、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする意欲の向上を図った。



【発表後の評価の様子】

III 実践の成果と課題

- 学習者用デジタル教科書の単語の読み上げ機能を活用し、一人一人の課題に応じて、発音を聞きながら、音読を繰り返す学習活動を行ったことにより、正しい発音で自信をもって音読する様子が見られた。
- 学習者用デジタル教科書のリテリング機能を活用し、これまで身に付けた表現を用いて発表内容や方法を考える時間を設定したことにより、相手に話す内容を伝えるための工夫について考える様子が見られた。
- 外国語を用いてコミュニケーションを図る場面の一層の充実に向けて、グループでの発表の際、聞き手が、外国語を用いて発表内容に回答したり、発表内容の質問をしたりするなどの学習場面を設定するなど、1単位時間の学習活動や単元の指導計画を見直す必要がある。

デジタル教科書を活用した外国語教育の充実

留萌市立留萌小学校 学級数 19 (校長 石田 正樹)

I 実践テーマの趣旨

本校は、学校力向上に関する総合実践事業指定校として、令和2年度より外国語教育の充実を掲げ専科指導やICTの活用、小中連携した外国語教育に取り組んでいる。

デジタル教科書の活用については、教師用のデジタル教科書を配備し、外国語専科教員によるデジタル教科書を活用した取組の充実を図るとともに、授業のルールとして授業の前に、児童がデジタル教科書、Teams、ロイロノートのアプリを起動できるよう1人1台端末を机上に準備させるなど、日常的な活用を進めている。

II 実践の概要

1 授業におけるデジタル教科書の活用

(1) 一斉授業での活用

リスニングでは、児童の理解の状況を把握することができるよう、児童に、教師用のデジタル教科書の音声を一斉に聞かせ、デジタル教科書に直接解答させた後、スクリーンショット機能により、ロイロノートで解答を提出させている。



【リスニング解答提出画面】

(2) 個別最適な学びの充実

第6学年では、単元の導入に言語活動のゴールを示した後、児童に、学習計画を立てさせている。こうしたことにより、児童は、目標に向かってデジタル教科書を活用し、動画による発表の工夫、新出単語の発音練習、複数回のリスニング、動画を活用した友だちとの交流など、自分にあった学習方法を選択し、主体的な学習を進めている。



【リスニングの様子】

2 家庭学習や支援の必要な児童への活用について

外国語活動においては、児童が英語により一層慣れ親しむことができるよう、デジタル教科書を活用し、単元の導入に繰り返しの英語のフレーズを含んだ音楽を活用し、速度を選んで聞くなど、家庭学習での予習としての活用を行っている。

また、デジタル教科書の機能を活用し、支援が必要な児童には、ふり仮名や白黒反転などの機能を活用し、児童の特性に応じて学習に集中できるようサポートしている。

III 成果(○)と課題(●)

- これまで、一斉授業で児童一人一人のニーズに応えることができなかったが、デジタル教科書を活用することにより、児童が自分の目標に応じて学習を進めることができるようになった。
- デジタル教科書を活用したことにより、児童にとって音声に触れる機会が増え、自信をもって発声するなど、効果的な指導ができた。
- 今後、より一層の外国語教育の充実に向けて、デジタル教科書の機能を十分理解した上で、活用する必要がある。

デジタル教科書を活用した外国語教育の充実

稚内市立稚内東中学校 学級数7 (校長 坂見 明信)

本校では、デジタル教科書を活用した授業改革に向けて、各教科等の指導において、デジタル教科書を積極的に活用している。特に、外国語科においては、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による言語活動の充実を図るため、教師用及び生徒用デジタル教科書の効果的な活用の在り方について実践研究を進めている。

I デジタル教科書の活用の利点

本校の外国語科の授業では、教師用及び生徒用デジタル教科書を積極的に活用しており、生徒は紙の教科書とデジタル教科書を併用しながら、授業に取り組んでいる。授業における実際の状況は、次のとおりである。

1 リスニングの実施

生徒は、教科書本文を読み上げる機能を用いて、各自で本文を聞き取り、簡単な質問等に答えることを通して、聞き取った本文の概要を確認し、理解の定着を図っている。生徒が、集中して聞き取ることができるよう、イヤホンを使用する場合もある。生徒は、内容を複数回聞き取ったり、再生速度を調整して聞き取ったりすることで、教科書本文の概要を捉えることができている。



【デジタル教科書活用の様子】

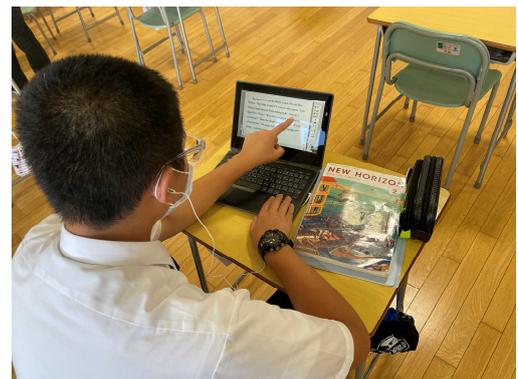
2 クイズの活用

教科書の内容の理解度を確認するために、生徒が自分自身のペースで、教科書の内容に係る問題や質問に取り組んでいる。二者択一問題によって、本文の概要を確認した後、内容の詳細に関する英語での質問に、英語で解答する問題に取り組んでいる。生徒は、何度も二者択一の問題や英語での解答に挑戦したり、家庭学習での復習に活用したりしている。

3 音読の場面での活用

音読練習において、教師による発音の指導の後に、デジタル教科書の音声を聞きながら、本文を黙読したり、シャドウイング（少し遅れて音読）したりすることで、正確な英語の発音の定着につながっている。

また、生徒自身のペースで音声を止めたり、同じ箇所を複数回聞いたりすることで、音のつながりや区切り方などを意識して、本文を音読できるようになり、生徒の中には、ディクテーション（書き取り）に挑戦している姿も見られた。



【シャドウイングに挑戦する様子】

II 成果 (○) と課題 (●)

- デジタル教科書の機能を活用し、何度も英語に触れたことによって、「読むこと」の領域における単元テストの結果において、英文の理解に関する正答率が向上した。
- デジタル教科書の音声再生機能を生徒自身のペースで活用するなど、個別最適な学びが充実したことで、「聞くこと」はもとより、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」の力も身に付いてきた。
- 生徒用デジタル教科書への書き込みが保存されないこと、板書と異なり思考のプロセスが目の前に示されないこと、教師用と生徒用のデジタル教科書で機能が大きく異なることなどへの対応策を検討する必要がある。